

学 位 論 文 要 旨	
氏 名	寺田 剛
題 目	ニセマイコガ科の分類学的研究 (鱗翅目) (Systematic study on the family Stathmopodidae (Lepidoptera))
<p>ニセマイコガ科はキバガ上科に含まれ、世界から 39 属 390 種以上が知られている (寺田・坂巻, 2013)。本科は日本から 9 属 43 種が知られているが、この中には未同定種が 13 種含まれている。筆者はこれまでに Terada <i>et al.</i> (2011) および Terada (2012, 2013a, c, 2014) において 13 新種と 1 日本新記録種を報告しているが、本科には未だ多くの未記載種、日本未記録種が存在すると考えられ、分類学的な研究が必要である。そこで本研究では日本産ニセマイコガ科の種構成を明らかにするため標本を集め、交尾器などの各形態により検討した。本研究により、既知の未同定種の内 11 種には 4 未記載種、2 日本未記録種が含まれ、5 種がシノニムであることが明らかになった。また、新たに 1 未記載属、3 日本未記録属および 12 未記載種、7 日本未記録種 (5 未同定種を含む) を確認し、日本産本科に 13 属 57 種が含まれることを明らかにした。</p> <p>また、本科の種間の系統関係を明らかにするため、7 属 25 種についてミトコンドリア DNA の <i>COI</i> (1098 塩基対) 領域、核 DNA の <i>EF-1α</i> (506 塩基対)、<i>CAD</i> (772 塩基対) 領域の塩基配列の連結データを用いて最尤法により系統樹を作製し、系統関係を推定した。この結果、<i>Calicotis</i> 属、<i>Cuprina</i> 属、<i>Pachyrhabda</i> 属の単系統性が支持されたが、<i>Stathmopoda</i> 属については多系統群である可能性が考えられた。しかし、<i>Pachyrhabda</i> 属および <i>Stathmopoda</i> 属については枝の信頼性が低かったため、今後も検討が必要である。また、幼虫のシダ類の孢子食はニセマイコガ科の分化の早い段階で 1 度だけ獲得されたことが考えられ、このシダ類の孢子食者のグループに知られている“奇妙な巣”を作る習性 (杉島, 2003) は本科において少なくとも 2 回独立に進化したことが示唆された。さらに、本科幼虫の極一部に知られている肉食性は虫こぶ食から分化したことが示唆され、虫こぶ食者の機会的肉食 (Sugiura and Yamazaki, 2004) が完全な肉食性への分化の要因の一つであると考えられた。しかし、肉食の種とこの種に近縁な虫こぶ食の種が含まれるクレードの枝の信頼性が低かったため、これについても今後より詳細な解析と種間の系統関係の推定が必要であると考えられた。</p>	